

施工、ご使用上の注意事項

＜水質管理について＞

- ファンコイルユニットに使用する冷温水の水質によっては、コイルの銅管が、腐食されることがありますので、定期的な水質管理を行なっていただくことをおすすめします。特に、開放式蓄熱槽を使用する冷温水循環システムに於いて腐食が発生しやすい傾向にあります。
- 水質管理方法及び水質基準値は、日本冷凍空調工業会基準「冷凍空調機器用水質ガイドライン」（JRA-GL-02）によってください。
- 腐食防止剤等により水処理を実施する場合の水質管理方法及び水質基準値は、水処理業者と充分相談の上、決めてください。
- 既設のファンコイルユニットを更新する場合（コイルのみを交換する場合も含む）は、事前に水質検査を行ない腐食性の有無を確認してください。

過去に腐食が発生してなくても、現在の冷温水に腐食性がないとは言えません。

水質基準値からはずれている場合は、更新前に十分な水質調整を実施してください。

＜不凍液について＞

- 不凍液をご使用されますと、通常の冷温水と比べると能力が低下します。また、不凍液メーカーの推奨する管理目標値を外れた場合、銅管が腐食することがありますので、定期的な管理を行ってください。

＜冷房運転時の結露について＞

- ファンコイルユニットは、JISに定められた露付き試験条件（下表）で、露が機外へ滴下しないことを設計基準として製作しております。

冷水温度5℃以下、高温多湿（乾球27℃、相対湿度80%以上）の条件下では、露が滴下することがあります。

項 目	条 件
冷 水 入 口 温 度	5℃
水 量	標準水量
吸 込 及 び 周 囲 空 気 温 度	乾球 27℃・湿球 24℃（相対湿度 80%）
使 用 状 態	送風機“L（弱）”
時 間	4 時間

- 冷水通水の状態で4時間以上送風機を停止する場合は、バルブを全閉にして通水を停止してください。
又、24時間通水でご使用の場合は、電動弁を必ず取り付け、送風機の停止と同時に通水を止めてください。

＜凍結について＞

- 外気温度が0℃以下になると、水が凍結し、熱交換器や配管が破損することがあります。
- 凍結の恐れのある場合は、ボイラなどの熱源機器の温度調整器を低ノッチにして、熱源機器とポンプを連続運転し、常に温水を循環してください。

＜エア抜きについて＞

- コイルにエアが溜まると熱交換性能が低下し、異常音発生の原因にもなることがあります。
- 使用開始時など、手動エア抜弁を開きエアを抜いてください。エア抜きの際は、水の出具合を確認しながら行ってください。いきおいよく水が噴き出して周囲をぬらすことがありますので、手動エア抜弁は徐々に開いてください。